

# 「鬼の町で暮らす・働く」支援プロジェクト

を立ち上げました

## 1 背景・課題

「鬼北町人口ビジョン・総合戦略」では、将来、人口減少に伴い労働力人口も減少し、経済成長に悪影響をおよぼす可能性があるとともに、少子高齢化の進行による社会保障制度、医療・福祉分野全般にわたる社会的な負担の増大が懸念されています。

年齢階級別の人口移動の状況の長期的動向を見てみると、10歳代に見られる大幅な転出割合は近年縮小してきていますが、それに応じて20歳代に見られる転入割合も縮小しています。

これらの動きの要因としては、10歳代では少子化や景気の低迷等により、地元志向が強くなっている一方、20歳代では県内の雇用情勢が厳しく、自分に適した働く場所を見つけることができず、進学等で町外に出た若者が戻れな

い状況になっていることが推測されます。

また、事業承継等会員企業実態調査報告書(鬼北町商工会)を見ると、商工会会員262社のうち、「自分の代で廃業を考えている」が、116社(44%)に上り、将来雇用の場の減少、賑わいの低下が懸念されています。

## 2 目的

町内中学生を対象にしたアンケートを見ると、半数以上は「鬼北町に住みたい」と回答するなど、ふるさとへの愛着を持つ子どもは少なくありません。このことから、就労の場所があり、生活基盤が整えば、鬼北町に住み続ける人は増えると期待できると考えます。

また、町内の企業を見てみると、半数以上にあたる143社が事業継承を望んでいる

## 3 具体的な取り組み

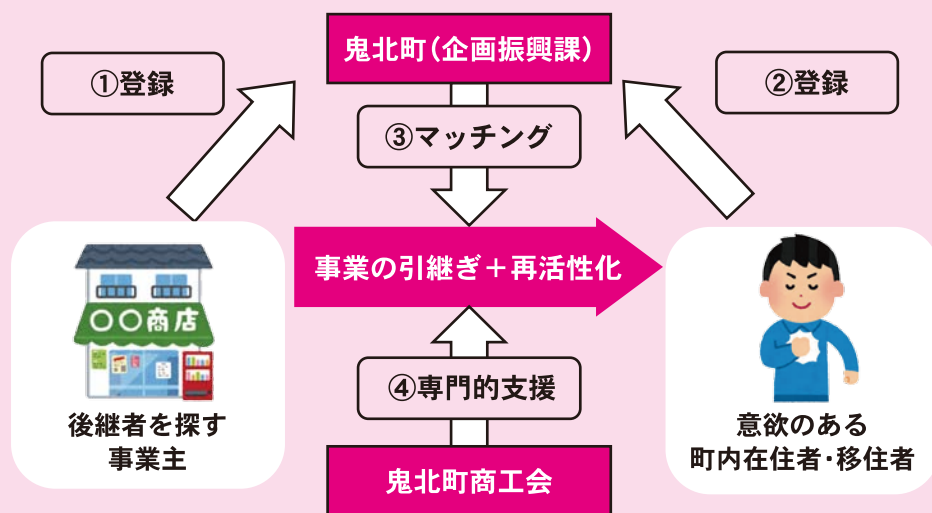
### 取り組み① 継業支援事業(鬼北町商工会とのマッチング事業)

鬼北町などの過疎地域では、後継者不足により商店等の廃業が増加傾向にあり、地域機能や賑わいの低下が懸念されています。

一方、全国的にみると、在住者のみならずU I Jターナー者が過疎地域で起業し、地域活性化に貢献する事例が増えていますが、開業場所の確保や経済的負担が課題となっています。

そこで、鬼北町と鬼北町商工会が協働し、後継者を求める事業主と、意欲ある町内在住者および移住者のマッチングを図り、移住者の支援と地域活性化を推進する事業を実施します。

#### 継業までの流れ



**問** 企画振興課 総合企画係 内線2211  
鬼北町では、町民の皆さんやU I Jターナーの地域への定着を図るための施策として、「鬼の町で暮らす・働く」支援プロジェクトを企画しました。  
その概要についてお知らせします。